

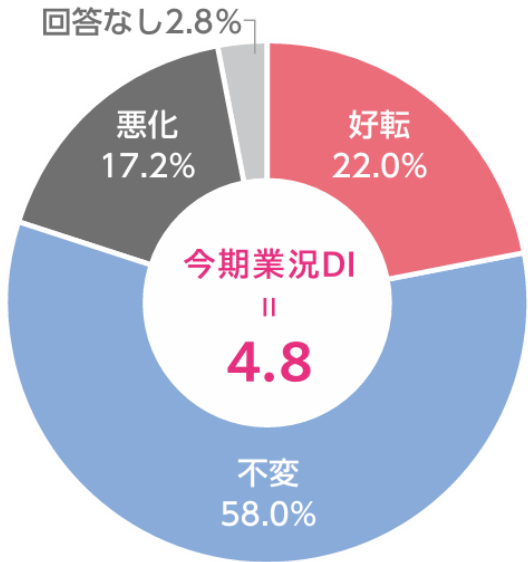
経済状況データ (DI) (2026年4月～6月期)

調査時期：2026年6月15日～7月10日
対象期間：2026年4月～6月期、及び
2026年7月～9月期見通し
調査対象：東京商工会議所世田谷支部
会員 (3,645社)
回収状況：合計472社 (回収率12.9%)



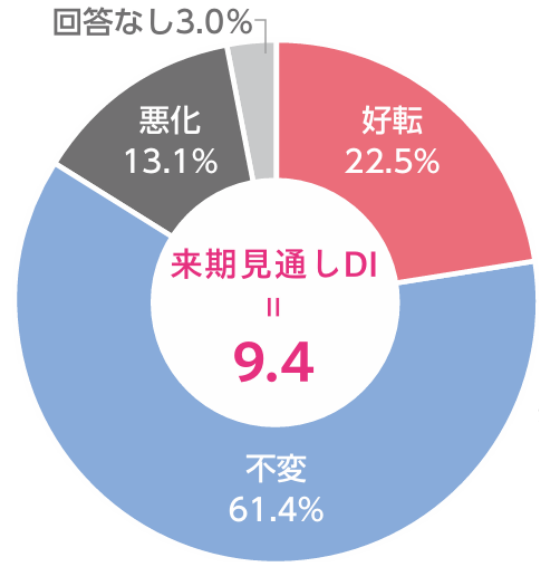
今期 (2026年4～6月期実績) の業況DIは、+4.8ポイントで前期から+3.5ポイント改善した。
来期の業況見通しDIは+9.4ポイントとなり、前回調査より+6.7ポイント改善する見通し。

今期の業況 (前期との比較)



DI 4.8=
好転22.0%－悪化17.2%
※前回調査 (1.3) から
3.5ポイント改善

来期の見通し (今期との比較)



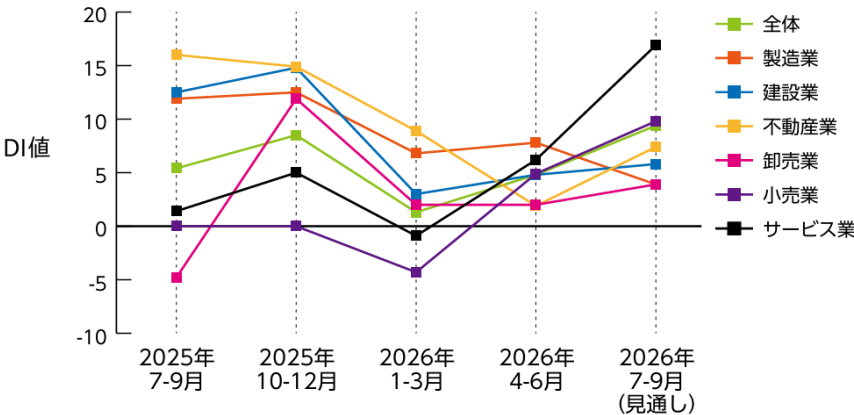
DI 9.4=
好転22.5%－悪化13.1%
※前回調査 (2.7) から
6.7ポイント改善

※DI (Diffusion Index) …DI(%)=「良い」「増加」等企業割合－「悪い」「減少」等企業割合。各項目について、「増加」「好転」とする企業の割合から、「減少」「悪化」した企業の割合を差し引いた値。プラスは全体として「増加」「好転」したとする割合が多く、景気が上向きの傾向を示す。マイナスは景気低迷の傾向を示す。

経済状況データ（DI）（2026年4月～6月期）

業種別の 動向

今期の業種別DIは、「小売業」+4.9(前期比+9.2)、「サービス業」+6.2(同+7.1)、「建設業」+4.8(同+1.8)など4指標で増加した。悪化したのは「不動産」+1.9(同▲7.0)のみであった。来期は「製造業」+3.9(当期比▲3.9)のみ悪化、その他「サービス業」+16.9(同+10.7)、「不動産業」+7.4(同+5.5)、「小売業」+9.8(同+4.9)などの5業種は増加する見通し。



全 体	5.4	8.5	1.3	4.8	9.4
製 造 業	11.9	12.5	6.8	7.8	3.9
建 設 業	12.5	14.8	3.0	4.8	5.8
不 動 産 業	16.0	14.9	8.9	1.9	7.4
卸 売 業	▲4.8	11.9	2.0	2.0	3.9
小 売 業	0.0	0.0	▲4.3	4.9	9.8
サービス業	1.4	5.0	▲0.9	6.2	16.9
	2025年 7-9月	2025年 10-12月	2026年 1-3月	2026年 4-6月	2026年 7-9月 (見通し)

経営上の問題点

順位	項 目	回答数	回答率	前回順位	順位	項 目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	237	50.2%	— 1	11	大企業(大型店)進出による競争激化	24	5.1%	↑ 14
2	人件費の増加	156	33.1%	— 2	11	事業資金の借入難	24	5.1%	— 11
3	人件費以外の経費の増加	135	28.6%	— 3	13	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	21	4.4%	↓ 10
4	従業員の確保難	112	23.7%	— 4	14	在庫の過剰	15	3.2%	↑ 16
5	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	69	14.6%	↑ 7	15	取引条件の悪化	14	3.0%	↓ 13
6	購買ニーズの変化への対応	54	11.4%	↓ 5	16	生産設備の不足・老朽化	13	2.8%	↓ 12
7	新規参入者の進出や同業者の増加	53	11.2%	↑ 9	17	購買力の他地域への流出	10	2.1%	↑ 18
8	需要の停滞	45	9.5%	↓ 6	18	代金回収の悪化	7	1.5%	↓ 17
9	金利負担の増加	42	8.9%	↓ 7	19	生産設備の過剰	1	0.2%	— 19
10	在庫の不足	28	5.9%	↑ 15					

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。